

女子大学生の化粧行動と自己意識・他者意識の関係

A43108 杉山 久美

今や、ほとんどの女子大学生が化粧をしている。多くの女性が自ら化粧をするということは、それに伴う何らかの効果があると考えられる。女性は何のために化粧をするのか、また化粧をしない女性はなぜ化粧をしないのか。

他者から見られる自分に対して注意を向ける傾向を公的自意識というが、ミラーとコックス (2001) はこの公的自意識と化粧品使用の関連を検討している。その結果公的自意識の高い女性は公的自意識の低い女性に比べて化粧度 (使用化粧品目数) が高いこと、そして化粧によって自分の容姿の魅力が上昇するとみなしていることが示されている。

目的

①以下の仮説を検証することを本研究の目的とする。

人の目を気にする意識 (公的自意識) の高いひとは、公的自意識の低い人に比べ、化粧をよく施しており、化粧度が高い。

②公的自意識の高い人、化粧度の高い人は化粧に対して肯定的な意見を持ち、化粧に対する期待が高い。また公的自意識の低い人、化粧度の低い人は、化粧に対して肯定的な意見を持たず、化粧に対する期待も低い。

方法

①自己意識 (公的自意識・私的自意識)・他者意識 (外的他者意識・内的他者意識・空想的他者意識) の尺度を使用し、首都圏の私立大学の女子学生 218 名に質問紙を授業内で配布し回答を得た。

②質問紙により募集した公的自意識が高いタイプ、低いタイプ、化粧度が高いタイプ、低いタイプの女子学生 4 名に面接を行った。

結果

①公的自意識、私的自意識、外的他者意識、内的他者意識、空想的他者意識のそれぞれを単純集計し、上位 4 分の 1、下位 4 分の 1 の 2 群に分け、化粧度との 2 群の平均値の差の検定を行ったがどれも優位な差はみられず仮説は検証されなかった。また相関分析も行ったが相関はみられなかった。

②それぞれの特徴のデータを得ることはできたが仮説は検証されなかった。

考察

仮説が検証されなかった要因として、化粧度には個的自意識以外に様々な性格特性が関わりあっているのではないだろうか。

また面接では公的自意識の高いノーメイクのひとはファッションや髪型にこだわっていた。ここに公的自意識の高い特徴がみられた。

結論

人の目を気にする公的自意識であるが、公的自意識が高いからといって、化粧度が高いとは一概には言えないようである。人の目を気にするから化粧をしないまたは薄くしているという女性もいる。また大学生の化粧行動にはさまざまな要因が複雑に絡んでいると思われる。そのひと個人の性格、ライフスタイル、周りの人々などにも大きく左右されるのではないかと感じた。特にファッションやメイクはそのときの流行によっても全く違ってくるのではないだろうか。